

若者と企業向け機能を強化、職業情報に課業リストも

「キャリアアマトリックス」

新版公開

—最大級の総合的職業情報データベース

1.

新キャリアアマトリックスの意義

労働政策研究・研修機構は、二〇〇八年九月二九日、新たな機能や内容を搭載した新「キャリアアマトリックス」をインターネット上で一般公開した。

グローバル経済化、技術革新の進展等、労働市場を取り巻く環境は大きく変化している。その中で、労働者は自らの意思に基づいた職業キャリアの形

成を、企業は生き残りをかけて求める人材の採用・確保を図っていかねばならない。新「キャリアアマトリックス」は、この両者の活動を支援すべく内容の充実等を図ったものである。

新キャリアアマトリックスの職業情報

新キャリアアマトリックスは、収録する約五〇〇の職業について、統一項目（職務内容、就職経路、要件、適性、統計情報、関連情報）の下に整備した職業情報データベースと、個人（求職者、学生・若者）、支援者（カウンセラー・相談員）、企業が、各々の用途に応じてアクセスできるシステムを用意している。特に今回の新キャリアアマトリックスでは、若者・学生、企業向けのシステムを搭載したことが特徴である。

また提供する職業情報については、従来から積み重ねてきた関係団体等からの収集に加えて、当該職業に就いている者を対象としたWeb職務調査を実施して課業（task）リストを作成するなど、正確さと精密さを期した。一つひとつの職業について、職務内容の最小単位である課業（task）までを提供しているのは、あまたの職業情報の中でも、新キャリアアマトリックスのみである。

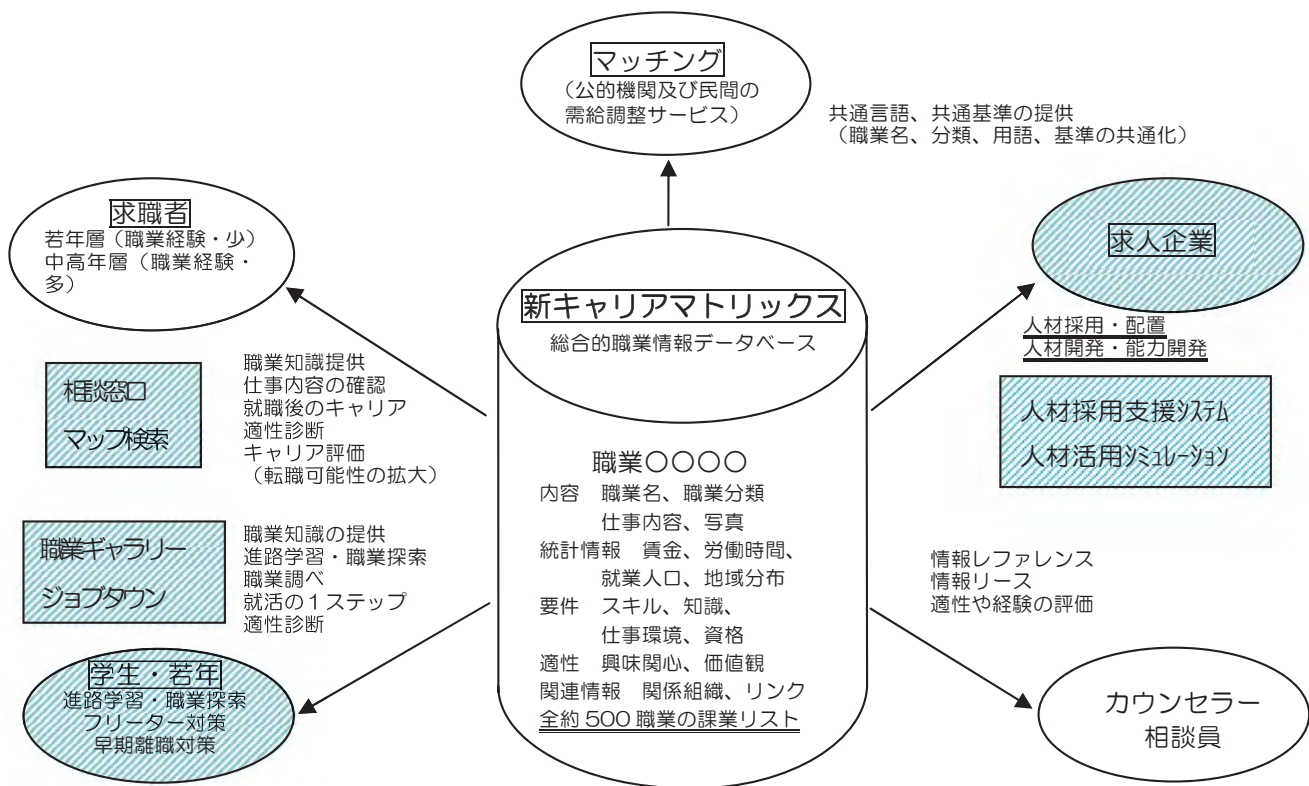
新キャリアアマトリックスの職業情報の構成と利用活用システムの充実については図のとおりである（詳細は後述の「新キャリアアマトリックスの研究開発—開発の経緯とコア機能」参照）。

新キャリアアマトリックスの役割

新キャリアアマトリックスは、職業情報百科事典の機能に加え、企業向けのシステム、個人向けの自己理解ツール等を搭載した総合的職業情報データベースであり、個人、支援者、企業にとって、次のような役割を果たすこと



(注) 網掛けの部分とアンダーラインの部分が新たに提供を開始した情報内容と機能



新キャリアアマトリックスでは、企業が求人を行う際の職務要件の明確化や企業内の人材の職種転換検討を行うことも支援している。例えば、一見かけ離れた職業同士であっても、新キャリアアマトリックスで用意された職業プロフィール比較を行うことにより、多くの項目において必要とする能力に差がなかったり、類似・近似点が見出されたという現実がある。このような比較を行った後に必要な教育訓練が実施されれば、円滑な職種転換を行うことが可能となる。

(統括研究員・西村公子)

2.

新キャリアアマトリックスの研究開発

—開発の経緯とコア機能

キャリアアマトリックスとは労働政策研究・研修機構が二〇〇六年九月に一般公開を開始し、二〇〇八年九月、新版の提供を開始したインターネットによる職業情報、キャリア情報の提供システムである。公開以来、新聞、雑誌で取り上げられ、求人サイトにバナーが設置されたり、大学就職部、キャリアセンターのホームページ等に紹介が数多く行われ、非常に多くのアクセスとなっている。ここでは、このキャリアアマトリックスに関して、研究開発の経緯とコアとなる機能に関して紹介していくことにする。

等々に関する基盤となる情報となっている。各国のサイトはそれぞれに特色があるが、キャリアアマトリックスはこれら諸外国のもの比べても、最大級の情報を提供している。

1. 開発の経緯と方法

キャリアアマトリックスの研究開発は二〇〇〇年頃から始まっている。最初

は諸外国の参考となるシステムについて調査研究を行った。米国の労働省のO*NET & CareerInfoNetを始めとして、英国のWorkTrain、ドイツのBERUFEnet、フランスのROME、また北欧ではAVOやAMS等々、国やそれに準ずる機関が職業情報、キャリア情報の開発と提供を行っており、この状況を調査した。そして、二〇〇三年三月の厚生労働省「職業情報データベース検討会議」において、開発に関する基本的な方針、方向性が決定されている（日本労働研究機構、二〇〇三年）。これを受け二〇〇三年からシステム開発と情報収集を行い、二〇〇六年九月に一般公開を開始した。研究開発はその後も続いており、二〇〇八年九月に新「キャリアアマトリックス」を公開している。

職業情報を提供するサイトは、英国、ドイツ、フランス等にもある。それぞれ政府や関連機関が開発、提供し、就職や転職、キャリア開発、能力開発、

厚生労働省担当部局等をメンバーとする開発委員会において、開発方針や方向性を決定し、当機構研究員とシステム開発会社の技術者で構成される開発プロジェクトメンバーによって、開発の詳細な検討と試作、検証等を行い、順次開発を行ってきた。この開発プロジェクトメンバーによる会議はほぼ毎週行い、これまでに二〇〇回近くになっている。

開発したシステムは専門機関のユーザビリティテストによる評価も受けている。この評価はシステムを一般の利用者実際に使用してもらい、画面や操作性に問題が無いかを確認するとともに、ユーザビリティ専門家に評価いただくものである。ユーザビリティテストで問題点等があった場合は、検討しシステムを修正してきた。また、公開前には関係者、関係団体、ハローワーク等に事前に限定公開し、最終の確認を行うとともに意見等を聞いている。

キャリアアマトリックスのシステムに関しては以上のように開発を進めてきたが、キャリアアマトリックスの情報内容、コンテンツの収集と整理に関しては次の三つの方法で行ってきた。第一が所内の既存資料の活用である。当機構では一九八〇年代から『職業ハンドブック』として冊子やCD・ROMによる職業情報の提供を行っていたが、この冊子編集の基礎となる情報を蓄積、

整理してきた。キャリアアマトリックスにおいてもこのこれまでに蓄積した関連資料や情報を活用している。第二の方法が関連団体の訪問である。職業にはそれぞれ関連する協会等団体があるが、このような組織を訪問し、最近の状況を調査している。情報収集のために訪問した団体は約六〇〇カ所にのぼり、開発プロジェクトメンバーで手分けして行った。関係団体では仕事の場面の写真等の提供をいただいたり、場合によっては事業所等を紹介してもらい、その職場で職業の写真を撮影したりしている。また、関係団体には職業情報の解説文等の確認も行っていた。第三の方法がWeb調査である。これまでにWeb調査モニター三〇〇万人近くに現在の職業を聞き、今回のプロジェクトのなかで開発した「Web職務分析システム」により、職務や仕事の内容を詳細に調査している。Web調査では、職業毎に用意した課題(task)を実際に仕事の中で行っているかを聞き、また、用意したもの以外に課題がある場合はそれを自由記述により追加してもらっている。新キャリアアマトリックスは全約五〇〇職業の職業リストを提供しているが、この課題は案を作成し、それを実際の就業者確認してもらい、必要な修正や追加を行うというサイクルを繰り返し、作成したものである。スキル、知識、仕事環境は全体で九四カテゴリーになるが、これに関しても実際の仕事場面ではどうかを五段階で評定してもらっている。キャリアアマトリックスの全職業には職業を多面的に数値化した「職業プロフィール」があるが、この数値は

図1 新キャリアマトリックスのトップ画面

職業とキャリアに関する総合情報システム
CAREER MATRIX

提供: 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

キャリアマトリックス(CMM)は職業情報とキャリアに関する総合的な情報サイトです。約5000職種の仕事内容を写真とともに掲載しています。しごとと百科事典としてご利用ください。興味、ワークスタイル(価値観)、スキルから進路を探索したり、これまでの経歴を分析し、それから進路を調べることもできます。

キャリアマトリックスが新しくなりました!
キャリアマトリックスが、新しくなりました。新しいツール、分かりやすいメニューなど、使い勝手が大きく向上しています。ぜひご利用ください。 [more...](#)

利用者別メニュー

- 求職者、在職者の方はこちら
- 生徒、学生、若者の方はこちら
- 教育、キャリア相談担当の方はこちら
- 企業の人事担当の方はこちら

キャリアマトリックスガイドツアー
キャリアマトリックスを使ってできることを操作の流れに従って説明します。 [>>>スタート](#)

キャリアマトリックス・ツール

凡例: 求職者、在職者向け 学生、生徒、学生、若者向け
専門 教育、キャリア相談担当者向け 企業 企業の人事担当者向け

職業理解

- 職業検索** 職業名や職務内容から職業を検索し、職業についての詳細情報を表示します。
- 職業ギャラリー** キャリアマトリックスに収録されている職業の写真を一覧表示しています。写真を見て、気になる職業の情報をみてみましょう。
- ジョブタウン** ジョブタウンのイラスト地図を見ながら、気になる場所で働く職業を探してみましょう。

自己理解

- 進路探索ナビ** 「興味」や「ワークスタイル」などから、あなたに向いた職業を探索します。
- キャリア分析ナビ(ベーシック版)** これまでの履歴からあなたの「スキル」などを推定し、それに見合った職業やあなたのアピールポイントを見ることができます。
- キャリア分析ナビ(アドバンス版)** これまでの履歴を「スキル」などへ分解・分析し、気になる職業との適合度を比較できます。(使い方にやや複雑な部分があります。最初ベーシック版で慣れてから、ご利用下さい。)

人材管理

- 人材採用支援システム** キャリアマトリックスの約5000の職業情報を元に、職務要件(仕事内容、必要なスキルや知識、等々)を明確化します。
- 人材活用シミュレーション** 社内の現状の人材と将来のあるべき姿を客観的に比較でき、人材の活用、教育訓練などの検討ができます。

マイリスト
上の様々なツールで職業をマイリストに記録し、それぞれの職業を見比べてみましょう。

サイトマップ | Q&A | お問い合わせ

トピックス

- 1. 08年夏のボーナス0.4%減
- 406.012円/毎月勤労統計(厚労省11月4日)
- 2. 50万人分の公的雇用を創出(東京都10月31日)
- 3. 9月の有効求人倍率0.84倍、0.02ポイント低下(厚労省10月31日)

アンケート
より良いサイトとするため、利用者アンケートを行っています。ご協力ください。

主な利用目的:
選択してください

年齢:
選択してください

性別:
☐ 男性 ☐ 女性

[送信](#)

職業アクセスランキング

1. 一般事務員
2. 経理事務員
3. アクチュアリー
4. 保育士
5. NC技能工

[more...](#)

お知らせ

- 1. キャリアマトリックスが新しくなりました。

[more...](#)

■ ミラーサイトのお知らせ >>>
■ 利用者の声 >>>

※ パンフレット、マニュアル、バナー等のダウンロードは、左側に移動しました。

このようにして得られた実際の就業者の評定を集計分析したものである。Web 職務調査ではこれ以外に、持っている免許や資格(選択と自由記述による追加)、年齢、性別、学歴、訓練歴、収入等の属性を調べている。

今回、伝統的な職務分析の方法ではなく、上記のような Web 調査を使用した背景には、現実的問題として伝統的な職務分析の実施が困難であったという事情がある。従来の職務分析を多

くの職業に関して行うことは多大なコストを要する。職務分析者を養成し、その人が各職業の職場を訪問し調査を行うため、莫大な育成費・人件費・時間が必要となる。こうした制約から日本では第二次大戦後の一時期、大規模な職務分析が行われたが、その後は行われていない。米国においても各地の職務分析センターは閉鎖されている。このような事情から、従来の伝統的な職務分析の方法による職業に関する

データ収集は国内外を問わず実施可能な状況にあった。こうした中、Web 職務分析システムは情報を収集する手段として、大きな役割を担うものということができる。

また、このような形で職業毎の情報が収集できたということは、今後同種の情報を収集する際に様々な活用が可能である。Web 調査は所要時間も短縮でき、各職場、各職業で起こっている状況を逐一情報収集することができ

2. 新キャリアマトリックスの内容 — トップ画面と職業情報画面

る。大規模なデータ収集が短時間に低コストで実施できる意義は大きい。総計約三〇〇万人近くの Web モニターを使った職業情報の収集は、他の諸外国でも行われておらず、新たな職業収集の手法を開発した点も本研究開発の意義の一つと考えている。

図1にキャリアマトリックスのトップ画面を示した。中央に利用者別メニューがある。新キャリアマトリックスでは若年向けの機能や企業の人事担当者向けの機能を充実させ、「求職者、在職者」、「生徒、学生、若者」、「教育、キャリア相談担当」、「企業の人事担当」向けにそれぞれメニューを用意している。これにより、より的確な情報提供ができるようにしている。

利用者別メニューの下にはキャリアマトリックスのツールが並んでいるが、ツールは職業理解、自己理解、人材管理にまとめられる。「職業理解」には職業検

図2 キャリアマトリックスの職業情報画面例

現実的(R) ★★★★★
機械、道具を使った、モノ(動植物を含む)を対象とした具体的に実務的な仕事や活動が好きなこと。

企業的(E) ★★★★★
企画、立案したり、組織の運営や経営等の仕事や活動が好きなこと。

2.ワークスタイルについて
この職業に特徴的な「ワークスタイル」は、以下のものがあります。

成長 ★★★★★
他の職業に比べ、新しいことに学び、仕事を通じて成長できる仕事であること。

達成感 ★★★★★
他の職業に比べ、努力した結果が達成感に結びつく仕事であること。

自律性 ★★★★★
他の職業に比べ、自ら意思決定し、自主的に業務を行なっている仕事であること。

3.職業スキル(研修や経験を通して時間をかけて育てられる能力)について
この職業を遂行する上で重要と思われる「職業スキル」は、以下のものがあります。

要件分析 ★★★★★
ニーズを分析し、製品の仕様を決めること。

読む ★★★★★
仕事に必要な文書を理解すること。

プログラミング ★★★★★
コンピュータ・プログラムを作成すること。

4.知識について
この職業を遂行する上で重要と思われる「知識」は、以下のものがあります。

コンピュータとエレクトロニクス ★★★★★
回路基板、パソコン、チップ、電子機器、アプリケーションとプログラミングを含む、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについての知識。

事務処理 ★★★★★
ワードプロセッシング、ファイルや記録の管理、速記と書き起こし、書式の設計、その他の事務手続きといった管理事務手続きやシステム、および専門用語についての知識。

設計 ★★★★★
精密な技術計画、設計図、試作機、モデルの作成に関連するデザインの手法、ツール、原理についての知識。

5.仕事環境(作業環境、人とのかわり方、仕事の影響度、等)について
この職業に特徴的な「仕事環境」は、以下のものがあります。

屋内作業 ★★★★★
職場において、屋内で働くこと。

座り作業 ★★★★★
職場において、座り作業の時間。

厳密さ、正確さ ★★★★★
きわめて厳密、正確に職務を行なうことの重要性。

参考情報

この職業について参考情報を見る

■類似職業
システムエンジニア(アプリケーションスペシャリスト)(A061)
プログラマー(A062)

■関連資格
情報処理技術者

より詳しい職業情報を収集する
必要な資格を調べる、学校や求人を探す、仕事の内容をより詳しく知る、などなど

1.関連団体のWEBサイト - 関連団体のWEBサイトで色々と調べることができます。
社団法人 情報サービス産業協会 <http://www.jsia.or.jp/>

2.私のしごと館 Job World
私のしごと館 Job Worldは、様々な職業を3つのコーナー(おはな、なるほど、なるほど)で、動画映像と共に紹介しています。
「なるほど」では、仕事の概要を紹介する映像が見られます。
「なるほど」では、実際に働いている人の体験談が聞けます。
「なるほど」では、しごとを探すための方法が紹介されています。

詳しくは、私のしごと館 Job Worldのホームページ
http://www.shigotokan.edgo.jp/fim/top.html/をご覧ください。

システムエンジニア
おはな なるほど なるほど マークは、映像情報を見ることができる職業です。

3.求人を探す(ハローワーク・インターネットサービス)
ここでは全国のハローワークで受理した求職者の求職情報を検索することができます。
また、そのほかの様々なサービスも紹介しています。

ご意見、ご要望はこちら >>> 意見ボード

©2003-2008 JILPT. All Rights Reserved -GOSI(0804-H2)-

CAREER MATRIX

労働政策研究・研修機構 開じる

トップへ | メールで通知 | マイリストに追加 | マイリストを開く

システムエンジニア(ソフトウェア開発)

どんな職業か

コンピュータのソフトウェアは、一般利用者向けの「アプリケーションソフトウェア」、それらを効率的に動作させる「システムソフトウェア」、そのミドルウェアを動作させる「オペレーティングシステム(OS)」の3層に分けられるが、そのうちミドルウェアやオペレーティングシステムの開発を行う。

それらは、銀行の会計システムや航空券の予約システムなど様々なシステムが安定して稼働し、効率よく業務を行うために必要である。

法人顧客側の要望・ニーズを聴取し、イメージを具体化して、通信・関係ソフトなど開発分野のシステムエンジニアと打ち合わせ、ソフトウェアの仕様を固めて、開発の準備や計画を行う。他社の製品と比べると、販売額を予測して、開発可能な時期を判断する。開発が決定されると、効率的に開発する方法を検討し、ソフトウェアを作成する。テスト作業を行い、出荷して、いよいよ稼働する。開発終了後は問題点を分析し、次の開発に役立てる。

開発したソフトウェアを世の中に広く普及させるために、利用者のニーズを反映したソフトを作成して、顧客の求めに応じたシステムを作成することが重要である。

この職業の用語集 >>> 仕事の内容(職業リポート)

収入は

一般的に年収は、大学の情報系、理数系卒業であり、専門的な情報処理教育を受けた人が多い。

入職に際して、情報処理技術者の資格を持っていると有利である。その他、コンピュータやプログラム言語に関する基礎知識があると望ましい。

経験が浅い場合は上級開発者の設計にしたがって、プログラムの開発・修正作業を行う。その後、ソフトウェアの設計を行うようになり、最終的にソフトウェアの企画を行う。

コンピュータは変化が激しいので新しい技術や評価できる基礎的な知識や能力、習得するための積極性・柔軟性および新技術を製品化する企画力が求められる。分野によってはアイデアの創造性が重視される場合もあるが、基礎的なコンピュータの知識も必要で、情報処理教育を受けた人が望ましいといえる。グループで作業することが多いため、人間関係の維持や自分の主張を的確に表現できるコミュニケーション能力も必要である。

関連資格
情報処理技術者

労働条件の特徴

コンピュータメーカーの中でオペレーティングシステムを開発する部署や、ソフトウェア販売会社でプログラムを開発する部署で働く。コンピュータメーカーは都市部が多かったが、最近はネットワーク環境の整備などから事業所を地方に設けることも多い。打ち合わせのために客先に出向くこともあるが、通常は自分の会社内で働くことが多い。

働く(時間、休日、休暇などに特長はないが、フレックス制の適用など時間外への制約は少なくなる傾向がある。顧客のコンピュータシステムトラブルが発生した場合は、調査や修理のために休日や深夜に作業することもある。また、ソフトウェアの納期が近くなると忙しくなることも多い。

20歳代後半から30歳代が中心で、男性の方がやや多い傾向がある。開発のリーダーを中心に数人から数十人のチームで行うことが多く、一人一人がネットワークでつながったコンピュータを使用して作業を行う。

労働需要は安定している。

職業プロフィール

職業プロフィールとは、その職業に関する様々な特性を数値化したものです。ここでは「興味」「ワークスタイル」等の各カテゴリ毎に、数値が高い上位3項目を表示しています。

1.興味について
この職業に特徴的な「興味」は、以下のものがあります。

研究的(R) ★★★★★
研究や調査のような研究的、探検的な仕事や活動が好きなこと。

現実的(R) ★★★★★
機械、道具を使った、モノ(動植物を含む)を対象とした具体的に実務的な仕事や活動が好きなこと。

統計情報の概要

就業者数(計)=7747人
国勢調査<情報処理技術者>より

労働時間(平均)=183時間/月
賃金(平均)=5573万円/年
年齢(平均)=33.9歳
賃金センサスシステム・エンジニアより

>>> もっと詳しくはこちら

索と職業ギャラリー、ジョブタウンがある。職業検索はフリーワード検索、職業分野、テーマ、職業名等から職業を検索するものである。職業ギャ

リーは今回新たに提供を始めたものであるが、キャリアマトリックスに収録されている職業の写真を一覧表示し、それを見て、関心のある職業を調べる

というものである。ジョブタウンは仮想的な街並みのような画面からそこで働く職業を探すものである。職業ギャリーとジョブタウンは新キャリアマト

リックスで提供を開始したものであるが、いずれも学生や若者が身近なところから気楽に興味を持って、職業情報に接することができるよう開発したものである。

「自己理解」の適職探索ナビは興味、ワークスタイル(価値観)、スキルなどから、自分に向いた職業を探求するものであり、これは以前から提供していた機能である。自分の興味やワークスタイルから職業を検索できるが、この根拠はWeb調査で収集した現職者のデータである。キャリア分析ナビには操作の容易なベシック版と様々な設定が行えるアドバンス版がある。いずれもこれまでの職業から身に付いているスキルや知識を推定し、それに合った職業やアピールポイント(自分の強み)を知ることができる。キャリア分析ナビも以前から提供していた機能であるが、操

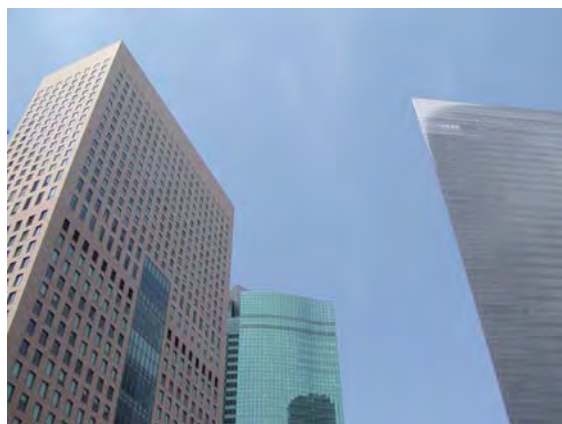
面等、かなり改良を加え、よりスムーズに操作できるようにしている。ここで過去の職業からスキルや知識を推定できるのも、Web調査による実際の就業者のデータがあるからである。

「人材管理」の二つのシステムは今回新たに開発し、提供を開始したものである。「人材採用支援システム・職務要件の作成」では、キャリアマトリックスの約五〇〇の職業情報を元に、職務要件（仕事内容、必要なスキルや知識、等々）を明確化することができ

る。「人材活用シミュレーション・職種転換の検討」では社内や地域の人材の状況と、今後必要となる人材を客観的に比較し、人材の活用、人材の開発等が検討できる。この「人材採用支援システム・職務要件の作成」と「人材活用シミュレーション・職種転換の検討」の背景データとしても、Web調査の結果を利用している。

これら中央の主要機能以外にトップ画面左側では、今週の職業、今週のテーマを週替わりで表示している。その下にはシステム全体のメニューを一覧できるようにしている。左側のメニューの中には相談窓口マップ検索がある。これは最寄りのハローワークや関連機関を検索し、地図上で示すものである。キャリアマトリックスはインターネット上のシステムであるが、サイトからの情報だけに頼ることなく、関係者や専門家に会って相談したり、実際の職場を訪問する等、ネット以外の情報も積極的に活用することが望ましいと考

えたためである。



ピックスを週替わりで表示し、その下には利用者アンケートのコーナーがある。これはいつも表示されるものではないが、利用目的等様々なことを聞き、今後のシステム開発に生かしていきたいと考えている。そしてその下に過去一週間によく見られた職業をランキング表示している。

図2に職業情報の画面例を示した。システムから提供している約五〇〇職業の職業情報は、職業情報の概要を写真とともに示した「どんな職業か」、その職業に就く経路を示した「就くには」、就業者数や労働時間、平均賃金等を表示する「労働条件の特徴」、職業の特徴を数値化した「職業プロフィール」、類似職業や関連団体のサイトの紹介、そして、職業の映像情報を提供するジョブジョブワールドへのリンク等を提供する「参考情報」から構成されている。「どんな職業か」に

おいて今回新たに全約五〇〇職業の課業(task)リストを提供している。

3. 新キャリアマトリックスのコア機能

キャリアマトリックスから提供する具体的な内容は以上の通りであるが、このキャリアマトリックスの基盤となる機能、コアとなる機能は次のようにまとめることができる。

第一に、標準となる職業情報／キャリア情報の提供があげられる。これまでの蓄積の上に関係団体約六〇〇カ所を訪問し、また三〇〇万人近くの調査モニターを使い、実際の就業者からデータを収集してきた本システムは、求人求職、キャリアガイダンス、能力開発、人材管理等関係分野に、基準となるしつかりとした情報を提供できるものと考えている。職業情報の提供では欧米に立ち遅れてきた我が国であるが、ようやく本システムにより、充実した情報内容と信頼性において世界をリードしてきた米労働省の諸システムに匹敵するものとなってきた。

第二に、標準となる関係ツールの提供がある。求職者個人向けの自己診断やキャリア分析、また求人企業向けの人材採用や人材活用を提供するツールを提供しているが、実際の就業者からの情報をもとに、根拠のあるツールを提供している点においても、キャリアマトリックスのツールは標準となるツール、基準となるツールであると考

えている。

第三に、共通言語、共通基準の提供がある。共通言語、共通基準とは、共通の職業名と共通の番号（これは職業分類といえる）、スキル、知識、仕事環境等、関連する用語の共通化、また、スキル、知識、仕事環境等の基準の共通化、例えば〇〇のスキルがこの程度等がある。共通の用語の部分は将来的には「標準スキル分類」、「標準知識分類」、「標準仕事環境分類」等々として、制定され広く利用されることを想定している。この共通言語や共通基準はやや抽象的な感じを受けるかもしれないが、かつての「厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）」の適性能（G、V、N、Q、S、P、K、F、M）は適性面から共通言語、共通基準を提供していたものと言える。また、ホランドの職業興味の分類におけるR、I、A、S、E、Cは米国に始まったものであるが、ヨーロッパや日本を含むアジア諸国でも利用されるようになっており、国際的な職業興味の標準分類となっている。そして、キャリアマトリックス研究開発プロジェクトのスタートの際、参考とした米労働省「ONET」においても、システムの目的をcommon language（共通言語）の提供としており、同じ趣旨で開発が行われている。

新キャリアマトリックスでは、共通言語、共通基準として、スキル三五カテゴリー、知識三三カテゴリー、興味六カテゴリー、ワークスタイル六カテゴリー、仕事環境一四カテゴリー、計九四カテゴリーに関してそれぞれカテゴリーを定義し、そのカテゴリー毎の基準となる数値がデータベース化されている。約五〇〇の職業に対して（行）、それぞれ約一

○〇個の数値(列)、合計で五万近い数値が行列として用意されていることになる。「キャリアマトリックス」という名称はマトリックスに「基盤」としての意味があるため、就職、転職、キャリア開発、能力開発等の基盤としての情報システムであり、また、中に収録されている数値情報が、「行列」すなわちマトリックスとなっていることに由来している。

第四に、システムの情報収集機能も基盤機能、コア機能の一つとしてあげることができる。先にも触れたように研究開発の過程でWeb職務分析システムを開発し、三〇〇万人近いWeb調査モニターを使って実際の就業者からの情報を収集している。このような大規模な情報収集を行っている例は諸外国を含め他にはない。このような情報収集があることによって、各ツールでは客観的な根拠のある結果を提示することができ、この情報をもとに職業を検索したり、職業プロフィールとして職業を多面的に数値化し表示することが可能となっている。

また、キャリアマトリックスは一般公開以降、膨大なアクセスがあることから、このアクセスを集計、解析することによっても様々なことがわかる。トップページに表示している「職業アクセスランキング」は過去一週間にどのような職業が閲覧されたかを集計しているものであるが、現在、どのような職業に関心が持たれているかをリアルタイムに把握することができる。また、九月から一般公開を開始した新キャリアマトリックスでは企業の人材採用、人材活用、人材開発を支援する

機能を提供しているが、この利用を集計し分析することにより、産業界が今どのような人材に関心を持ち、どのような人材を必要としているか、人材をどのようにしたいと考えているか等々、全般的な傾向とその動向を知ることができる。

4. 今後の研究開発

新キャリアマトリックスの役割は情報提供である。情報提供を通じて社会、個人双方がより適切に動き、それによって人材の最適配置、人材の活用、的確な就職やキャリア形成を支援しようとするものである。この役割を果たすためには利用を広げる必要がある。また先に述べた共通言語が普及し定着するためには新キャリアマトリックスがより広く知られ、より広く利用されることが必要である。今後は周知、普及等が重要と考えている。

また、提供する情報は最新かつ正確なものだけでなくはならない。このためにも情報コンテンツの更新・充実が重要である。システムから提供している各種のツールも、充実、強化し、より良いものとなるよう検討していくことも必要である。

キャリアマトリックスは以下のサイトから、二四時間三六五日無料で利用することができる。この二つのサイトは相互にミラーサイトとして同じ内容を提供しているが、これはアクセス集中時の負荷分散とともに、万が一、片方のシステムが止まった場合も他方から通常通り情報提供が継続できるようにしているものである。

にしているものである。

数年前にヒットしたSF映画『マトリックス』三部作の三作目、完結編は『マトリックス・レボリューションズ』というタイトルであった。キャリアマトリックスも情報の収集方法、情報の提供方法、今後の研究面での様々な展開の可能性等々を考えると革新的な大変革をもたらし、今後もそれが続いていくと言える。二〇〇八年の新版公開がreloadedであったとしたら、今後のキャリアマトリックスはrevolutionsでありたいと考えている。

3.

キャリアマトリックス・シンポジウム in 仙台

—日本キャリア教育学会で開催

一〇月二五、二六の両日、宮城県仙台市の東北大学で開かれた日本キャリア教育学会で「職業情報の新しい展開(新キャリアマトリックス)——若者・在職者・企業のための生涯キャリア発達支援」と題する企画シンポジウム(司会 吉田修・特任教授)が学会二日目に開かれた。

シンポジウムでは当機構が今秋公開したキャリアマトリックス改訂版の構造や機能を紹介するとともに、学校から職場までの実践場面での活用の助けとなるための情報提供と、参加者との討議を目的に開かれたもの。シンポジウムの冒頭、松本真作・副統括研究員が新しくなったキャリアマトリックス

<http://cmx.vrsys.net>
<http://cmx.hrsys.net>

(副統括研究員 松本真作)

【引用文献】

調査研究報告書No.一五一「人材の最適配置のための新たな職業の基盤情報システムに関する研究——企業・個人ニーズ調査、諸外国のシステム、翻訳実験版の開発、他」 日本労働研究機構二〇〇三年一月

のシステムについて、また石井徹・ARが主にコンテンツについてそれぞれ紹介した。

その後、〇六年の公開時から、キャリアマトリックスを活用している三人の出席者から、現在の活用方法を報告いただき、新キャリアマトリックスに対する期待などを語っていただいた。

求められる人材像を再分析できる

企業における人材活用や組織活性化のコンサルティングに長く携わってきた(株)アスピレックス町田秀樹代表取締役は、日本企業の経営における重



要課題として、人材育成のウエートが高まっていると強調した。

企業はこれまでの売り上げ重視から収益重視にスタンスを移すなか、新規事業、新製品、新規サービスの開発に力点を置いていると指摘。そのため、「優秀な人材をいかに確保するかが最大の課題となってきた」と語る。これは日本企業に限ったことではなく、韓国、台湾、中国の成長企業も異口同音に優秀な人材の確保が、企業が成長するかどうかのカギになっているという。ただ、その人材に求められる能力に

ついては、固定観念にとらわれていてはいけないと主張。「従来の自動車販売会社（ディーラー）の営業マンという、訪問販売で、一日に何件回ったかというノルマが重視されたが、今ディーラーに求められ、一番効率上がるのは、顧客満足度を上げること。どういった人がハイ・パフォーマンスかというと、顧客に対して聞き上手で、フットワークがよく、明るく、真摯な姿勢といった『おもてなしの心』が重視されてきており、従来の人材像とは異なる。こうしたスキルは整備士にも求められるものだ。顧客満足度を重視する整備士が営業にあたってもいいことになる」と述べ、実際に職種転換するケースも出てきているという。

このように、営業マンをステレオタイプ化せず、仕事の実際の中身について、課業（タスク）や能力まで分解していくと、異なる人材像が浮かび上がる。新キャリアマトリックスでは、仕事を課業や能力にまで分けて表示する機能が付加された。これを生かせば、実際に求められている課業や能力を分析し、仕事の効率化に結びつけるツールとして活用できる可能性があると述べた。

「当たる」診断テストで動機づけ

全校生徒七二〇人にキャリアマトリックスを使った進路指導を行っている東京都立晴海総合高等学校キャリアカウンセラーの千葉吉裕氏。適職探索ナビを使った、本人の診断テストは「よく当たる」という。診断テストは進路

指導だけでなく、科目を選択させる際にも活用している。「教師の教育的な演技は見抜かれてしまうが、当ててあげれば、生徒との間にすぐ信頼関係ができる」と、その効用を語る。

「入口で引きつけ、自分のことがわかる」と、職業に対して非常に興味を持ち始め、自分に合った職業を探し始める。その後、家庭でこのサイトのことを話し、家族にもテストしてもらったこともあるようだ。このような形になっていけば、このサイトは定着し、広がりが生まれてくる」（千葉氏）。全国高等学校進路指導協議会の事務局長も務める同氏は、キャリアマトリックスを進路指導の先生に積極的に薦めている。「本当にいいサイトを紹介してもらった」と感謝されることが多いという。

職業情報のスタンダードに

大学生や若者をはじめ、様々な人へのカウンセリング、適性相談などを行う「こころとキャリアのカウンセリングオフィス結」の山本公子代表は、若者の仕事に関する情報には「かなり偏りがある」とみている。ほとんどの若者は民間の就職情報サイトを利用してはいるが、こうした情報の大半は企業が発信元。たとえばある若者がマーケティングリサーチチャーターになりたいと思つて、民間の就職情報をみても、全体像は見えにくい。その点、キャリアマトリックスでは、その職業情報だけでなく、自己理解の支援、意思決定・行動の支援、さらに関係団体の情報もあり、「全体像が見えてくる」（山本代

表）。実際、マーケティングリサーチチャーターの新卒求人は少ない。しかし、「まず具体的に踏み出すための、情報のスタンダードが必要で、キャリアマトリックスは、そのスタンダードといえる」と語る。

新しいキャリアマトリックスについては、「敷居が低くなったのに、奥行きが深くなったところが大変いい」という。若者は文字情報より、画像・映像情報を通じて、直感的に判断する傾向が強い。そのため、ジョブタウンや職業ギャラリーなどが追加されたことで、若者がサイトを活用する、いい導入部になるだろうと期待する。「自分で探してみても、自分で見つけることが大切。専門家のニーズにこたえつつ、働く人に幅広く展開していただくことがたい」と要望した。

今後への期待

会場からは、新キャリアマトリックスについて、活用のあり方や今後の計画などについて、質問が出された。障害のある人たちに對する職業支援の観点から、情報提供はできないだろうかとの質問もあり、「インターフェースについて、弱視の方に対するフィードバックテストなどはやっているが、どういうニーズがあるかの把握はこれから。ただし、課業（タスク）と障害は関連性が高いので、通常カウンセラーが行っている障害者の職域拡大にとつてベシックな情報になるのではない」（吉田修・特任教授）と答えた。